

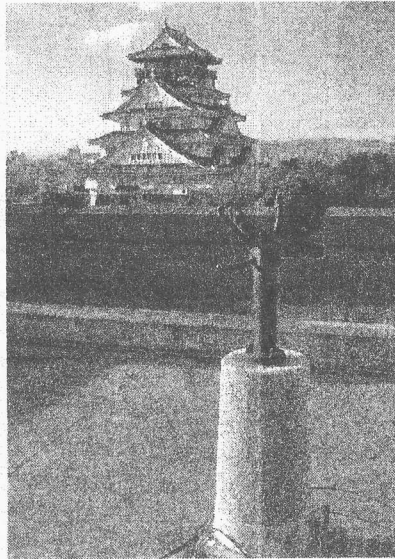


旧大阪市立博物館 (旧第四師団司令部庁舎)

■天守閣とともに誕生

大阪城天守閣に隣接して、いかめしい姿をみせる茶褐色の建物。これが第四師団司令部庁舎（以下、司令部庁舎）です。司令部庁舎が竣工したのは昭和6年（1931）3月で、この年の11月には天守閣も復興されました。

当時、大阪城内には第四師団が置かれていたため、天守閣復興にあたっては、大阪市と第四師団などが協議を重ね、司令部庁舎を建設し、かわりに天守閣復興と大阪城の一部を公園として整備することになったのです。



塔屋の上の銃座跡（非公開）

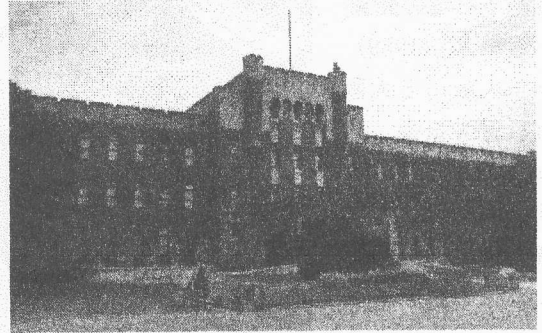
■建築費をめぐって

昭和6年、総額150万円をもって天守閣と師団司令部の2つの建築は無事竣工を迎えました。司令部庁舎は、同師団経理部の設計、清水組（現・清水建設）の施工で工費は80万円でした。実現した司令部庁舎は鉄筋コンクリート造地下1階地上3階の堅牢な建物で延床面積も広く、内外とも様式建築の細部装飾・調度を備えた大変凝った建築でした。

■物議をかもした建築意匠

実現した師団司令部のデザインについては、賛否がありました。第四師団は、西洋の古城の様式をもとに設計し、細部意匠で「東西相通ずる城郭気分を出」すことで大阪城の環境を害さぬようにしたといいます。しかし、建築の専門家などからは、日本の古城建築に囲まれて西洋の城郭は似つかわしくないの

ではないかと疑問の声があがりました。



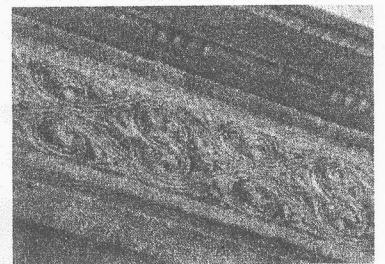
■豪華だった内外装

外観の特徴は、中央に塔屋を配した左右対称の姿です。全長95mほどの実に風格ある建築で、屋上付近には、半円アーチを繰り返した装飾帯（ロンバルディア・バンド）、建物全体や塔屋の隅にはタレットと呼ばれる小塔がみられます。外壁にはスクラッチタイルが貼られ、西洋の古城のような雰囲気になっています。

内部は、正面玄関の先に大階段があり、中央に南北一直線の廊下が走り、それに沿って諸室が並びます。2階正面には貴賓室、同南西隅には師団長室がありました。玄関を入った南北両脇には、かつてエレベータが各1基備えられていました。

■大阪市立博物館として

司令部庁舎は戦後約3年間進駐軍に接收され、解除後は大阪市警視庁や大阪府警が庁舎として利用しました。その後、昭和35年（1960）12月から大阪市立博物館として使われ、師団司令部時代の貴賓室は、日本万国博覧会のタイムカプセルを展示する部屋になりました。平成13年（2001）に閉館するまでの40年もの間、この建物は博物館として利用され、多くの方が訪れました。



もと貴賓室の梁レリーフ